



## 年間第 32 主日 (マタイ 25:1-13)

五人は愚かで、五人は賢かった

「十人のおとめがそれぞれともし火を持って、花婿を迎えに出て行く。そのうちの五人は愚かで、五人は賢かった。」(25・1-2) 私たちはもちろん、「賢い乙女」の振る舞いに倣わなければなりません。賢い乙女の賢さは、どこにあったのでしょうか。

十人の乙女にぴったり当てはまるたとえを、結婚式を準備しているカップルにずっと話してきました。ここで紹介したいと思います。結婚した夫婦が赤ちゃんに恵まれたとします。赤ちゃんはまず、空気を吸ったり吐いたりしているのではなく、羊水という液体に浸かって生きています。また、食べ物を口にして生きていくわけではなく、ヘソの緒で母親と繋がり、栄養をもらって生きています。

用水に浸かって、ヘソの緒で繋がっているにもかかわらず、赤ちゃんは成長していく中で、今は必要ないのに呼吸するための肺を用意します。今は必要ないのに、食べるための口、消化・排泄器官、ものを見るための目、音を聞くための耳を準備します。何もつかまないと、歩き回らないのに、手足の指が発達していきます。これはすべて、胎内を出た時のための準備です。無事に生まれてきて、すぐに新しい環境に適応するために、今はまったく必要のないものを胎内で準備しているわけです。

結婚するカップルには、この胎児の成長を例に、人は、この世のことだけを整えるだけでは足りないことを学ぶ参考にしています。つまり先祖のために祈るとか、自分自身の救いのために祈るとかは、この世のことだけで十分と考える人にはまったく不必要なことです。

しかし、この地上の生活を終えた後、神の国での生活に必要な物を準備していなければ、間に合わなくなるのです。胎児が、生まれ出て「しまった。外の世界では肺で呼吸をしなければいけないのか。外の世界では口から食べ物を入れなければならないのか」と言ってそれから準備をしても間に合わないのと同じです。

赤ちゃんが、次の世界で必要な物を準備しながら、私たちに「今さえよければ構わないという生活では、次の世界、次のステージに移った時に後悔しますよ」と教えているのだと結婚する人たちに考えさせるようにしています。今週の福音朗読は、まさにこの学びが当てはまるわけです。

「十人のおとめがそれぞれともし火を持って、花婿を迎えに出て行く。そのうちの五人は愚かで、五人は賢かった。」花婿が花嫁をもらい受けに行く時間は、「今」というステージです。「今」のことだけ考えれば、ともしびの予備の油は必要ないでしょう。

しかし花婿を出迎え、婚宴の会場に入る段階は、「次の世界」「新しいステージ」です。しかも、この新しいステージにいつ移るのか、ともしびを用意するおとめたちには知ることはできません。それでも、常に次のステージに移った時に困らないように、用意が必要なのです。

私たちにとって、「今の世界」と「次の世界」とはどのようなものでしょうか。「今のステージ」には大きな差は出ないけれども、「次のステージ」では大きな差となる「予備の油」とは何でしょうか。それは「イエス・キリストを信じる信仰」だと思います。「今の世界」のことだけ考えれば、日曜日に時間と都合を付けてミサに参加することは、その習慣のない多くの人々と差が付くことはないでしょう。ひよっとすると、もっとゆっくり眠り、平日にできないことに没頭する時間に費やした方がましかも知れません。

しかし、「今」教会に来てミサに参加することは、次の世界、次のステージで大きな差が付きます。私たちに次の世界があるなら、それはイエス・キリストと繋がった世界です。そこで必要なものは「今の世界」で用意していなければ間に合わないのです。

「予備の油」を買いに行ったおとめたちは、ついに次の世界、次のステージに移ることはできませんでした。「はっきり言うておく。わたしはお前たちを知らない」(25・12)と主人に突き放されます。それはつまり、「次の世界の準備をしないで今を過ごしてきたあなたがたの責任である」ということです。

今日、洗礼式を迎えるお子さんがいます。洗礼によって神の子とされ、永遠の命を授かり、教会の一員となります。この子も、これから「今」のことだけを追い求めて生きるのではなく、「今この時点から、次の世界に必要なものを備えて生きる」ひとになっていきます。

もちろん本人にはその力がまだ備わっていませんから、大人になるまで両親と代父母が、「今さえ良ければ構わないという生き方では足りないのだよ」と教え、導かなければなりません。教会の中で過ごす時間を体で覚え、両親、祖父母、代父母の祈りの声で祈ることを覚え、予備の油を蓄えていきます。

いつかこの子は「予備の油がなぜ必要なのか？今さえ楽しければ良いのではないか？」と聞いてくるかも知れません。その時に、両親、代父、祖父母はていねいに、今信仰を養っておけば、次のステージで決してうろたえることがなくなると、教えてあげるのです。

今週の福音朗読で、「五人は愚かで、五人は賢かった」とあるのは偶然ではないかも知れません。半分の人たちは、この地上の生活を、「今さえ良ければ構わない」そんな暮らしかたをしているのではないのでしょうか。さらに「油を分けてください」と愚かなおとめたちが願った時、賢いおとめたちは「分けてあげるほどはありません」と答えました。

私たちは「賢いおとめたち」を遙かに超えて、予備の油を分けてあげる、今を生きる中で、次を生きる準備を人に勧めることもできるのです。私のミサ説教は田平教会だけに留まらず、多くの人にネット上で聞かれています。原稿も読まれています。この人たちも含めて、予備の油を分けてあげることさえためらわない人になりましょう。今日洗礼を受けるお子さんが、そのような人に育っていくことを願っています。

それでは、洗礼式に移りましょう。